

今日多くの人々が、
過去を共に物語ることにより、
記憶を継承し歴史を紡ぐことに心を傾けている。

このような「コメモラシオンの時代」にあって、
私たちはどのように
他者の個別特異な生とその記憶を、
集団の物語／歴史に溶解させることなく
分有することができるだろうか？

「文字なき」ゆえに
「歴史なき民」とされてきたジプシーの人々のもとで、
「すべて」に抗うイメージの力
(あるいはそこでめぐりあう沈黙とアーカイヴ)
について探りながら考えてみたい。

講師：左地亮子

(国立民族学博物館グローバル現象研究部機関研究員)

著書：『現代フランスを生きるジプシー

―旅に住まうマヌーシュと共同性の人類学』(世界思想社、2017)

2017年、第39回サントリー学芸賞(思想・歴史)受賞

めぐりあう沈黙とアーカイヴ

フランスにおけるジプシーの服喪とコメモラシオン

2018年2月20日(火)

14:00~16:00

at 筑波大学第一エリア 1C210

本講演会は「平成29年度教育戦略推進プロジェクト支援事業」
(人文系大学院生のキャリアのグローバル化に資する、国際的協働による学位プログラムへの取り組み)の一環として開催されます。

問い合わせ：gendaibunka.project@gmail.com (猪股)

nakada.motoko.ge@u.tsukuba.ac.jp (中田)

筑波大学大学院人文社会科学研究所現代語・現代文化専攻